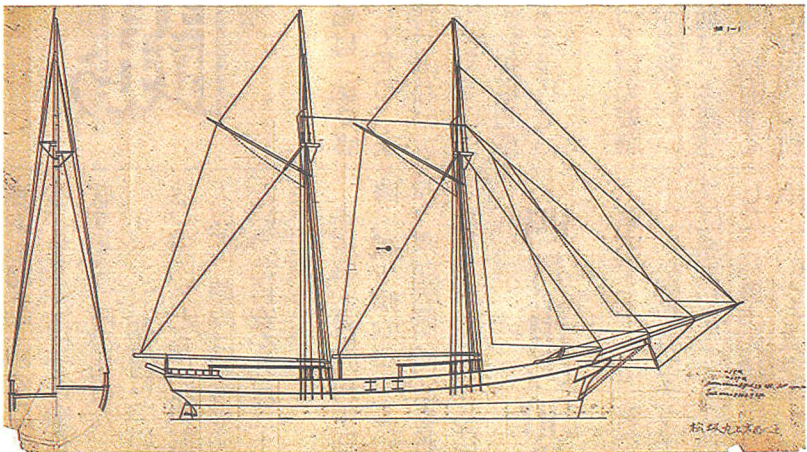


# 市川造船所資料6万点

## ふね遺産に認定

船舶海洋工学会

### 伊勢市所有 松坂丸の設計図も



伊勢市教委が所蔵する松坂丸の図面＝市教委提供

認定している。四回目の今年は七月に、一九五四年にビキニ環礁水爆実験で被災したことで知られる、西洋型肋骨構造を持ち、唯一現存する木造鯨船漁船「第五福竜丸」や、現存しないが、日本の大型豪華高速カーフェリーの先駆けとなった「さんふらわあ」など計八件が認定された。

市川造船所は、一七〇二～一九七八年に伊勢市大湊町にあった造船所。保管されていた船の設計図や大工道具などの資料六万二千八十点が、二〇一四年、旧同造船所労組から市に寄贈された。

同市教委によると、一八七八年建造の初の国産洋式帆走貨物船の一つである「松坂丸」や同じく日本初の発動機付き漁船「富士丸」などの設計図面もあり、日本近代造船史を解明する上で重要な資料が含まれているという。

同市教委は、二〇二一年一月二十六日から、県総合博物館（津市）で一部の資料の展示を予定している。伊勢市外での展示は初めてとなる。

（高橋信）

伊勢市は三十一日、市が所有する「市川造船所資料」約六万点が、船舶工学などの学会である日本船舶海洋工学会に、「ふね遺産」として認定されたと発表した。市川造船所の元従業員らでつくる「伊勢の造船資料を継承する会」の推薦を受けた。

ふね遺産は同学会が、二〇一七年から毎年、歴史的で、学術的・技術的に価値のある船や関連設備などを

伊勢市は三十一日、市が所有する「市川造船所資料」約六万点が、船舶工学などの学会である日本船舶海洋工学会に、「ふね遺産」として認定されたと発表した。市川造船所の元従業員らでつくる「伊勢の造船資料を継承する会」の推薦を受けた。